安全マネジメント

より詳しい情報は、こちらをご覧ください。▶

基本的な考え方

NSKグループは、「安全」を経営の意思決定や行動において、最優先される共通の価値基準であるコアバリューの一つに位置づけ、「安全理念」に基づき、従業員一人ひとりの安全を確保し、全ての従業員が安全に行動できるよう、様々な取り組みを実施しています。

NSKグループの安全理念
安全をすべてに優先
安全・安心・働きやすい職場づくり

労働安全衛生マネジメントシステムの取得

NSKの各事業所において、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるISO45001の外部認証を取得し、現状に満足することなく、常に安全レベルの向上を目指し活動の継続的な改善を図っています。NSKの全対象事業所は、ISO45001を取得済で、定期的に第三者機関の監査を受けることで、マネジメントシステムの実効性を高めています。

リスクアセスメント

NSKの生産現場では設備・機械のリスクアセスメントを進め、リスクが高いと評価された項目への対策を実施して労働災害リスクの低減を継続的に推進しています。新規設備や新工程に対しても、開発段階からリスクアセスメントを実施することで安全性を高めています。現在は、外部団体の資格認証を取得したセーフティアセッサの育成を進めており、適正な知識と技能を備えた人材によるリスクの低減措置を図っています。

資格取得者へのリスクアセスメント技能向上社内研修の様子

現在、セーフティアセッサの累計人数は、2022年度末時点で、991名（設計245名、生産拠点422名、グループ会社324名）となっており、社内の取得者数を増やす取り組みを進めています。

これにより、NSKグループ全体の労働災害発生件数は年々減少しており、活動を開始した当初と比較すると半数以下にすることができました。▶ P.74 主要非財務ハイライト

安全道場

NSKグループ全ての生産拠点に「安全道場」と名付けた施設を作り、労働災害の疑似体験機を使った教育を行っています。そこでは、NSKグループ内で実際に発生した労働災害や危険作業のリスクを認識し、正しい作業ルールを順守することで、一人ひとりが安全を優先することの大切さを学んでいます。安全道場では工場の全従業員を対象として、毎年定期的に教育を実施しています。VR（バーチャルリアリティ）による教育コンテンツも取り入れて高所作業や火災現場といった疑似体験もできるようにしています。

安全道場でのVR安全教育

労働災害事例の共有

NSKグループの拠点で労働災害が発生した際はその情報が世界中の事業所のイントラネットに掲示され、再現動画を作成し、発生状況の詳細を確認することができるようにしています。このような取り組みにより各職場で「類似する作業や類似する状況はないか」といった自分達の職場に置き換えて考える「自分事化」を推進しています。

過去に発生した労働災害を全員で共有することにより、再発防止に努めるとともに、安全意識を高めさらなる「安全・安心・働きやすい職場づくり」を推進しています。

災害再現動画一部抜粋